

津市埋蔵文化財センター情報

まいぶん津

2007. 3. 30
第2号



井ノ尻・浦ノ戸遺跡出土青磁碗・皿

新しい津市の遺跡② ～古代から近世～

現在の津市は、古くは北部が菟芸郡、中部が安濃郡、南部が一志郡に属していました。

今回は、古代から近世までの遺跡を、市北中部を安濃川水系、市南部を雲出川水系に分けて紹介します。

1 古代

安濃川水系では、安濃川下流左岸の鳥居古墳(鳥居町)から、7世紀末から8世紀前半に作られたと考えられる金銅製押出仏が多数出土しています。今のところ、これらは古墳の造られたのと同時に古墳に納めたとする意見と、後から古墳に納められたとする意見に分かれていますが、古墳から押出仏が出土することは珍しく、近接する四天王寺廃寺(栄町一丁目)とあわせ、地方の首長層への仏教文化の浸透を示す貴重な資料となっています。

また、近年の発掘調査で、大古曾遺跡(一身田大古曾)、橋垣内遺跡、六大B遺跡、六大A遺跡(ともに大里窪田町)では、飛鳥時代から平安時代にかけて、掘立柱建物群を中心とした集落が営まれていることが判明しました。

菟芸郡に属するこれらの遺跡からは、木簡や緑釉陶器、蹄脚硯などが出土していることから、古代の役所跡の可能性が高いと考えられています。このほかにも、安濃郡に属する浄土寺南遺跡(安濃町浄土寺)でも、大型掘立柱建物や木組み井戸、緑釉陶器、円面硯などが出土しており、この遺跡も役所跡ではないかと考えられています。

一方、雲出川水系は飛鳥時代から奈良時代にかけて、県内で最も古代寺院が集中する地域として知られています。雲出川中流域には、高寺廃寺(一志町高野)、斑光寺跡(一志町八太)などの古代寺院があり、特に高寺廃寺からは堂塔を飾る風鐸に付く風招とみられる銅板が出土しています。

また、雲出川水系の古代遺跡からは、暗文土師器が多く出土します。暗文土師器は、都から持ち込まれた都との強い繋がりを示す資料として注目されてきましたが、片野遺跡(一志町片野)から、この土師器生産をうかがわせる一括資料が出土し、この地域における土器



鳥居古墳出土金銅製押出仏(三重県立博物館蔵)

生産の実態の解明が待たれます。

2 中世

中世には、多気(美杉町)に本拠をおく北畠氏^{きたばたけ}が一志郡以南の中南勢地域で支配を固める一方、長野(美里町)に本拠をおく長野氏が安濃・奄芸郡に勢力を拡大していました。

前号でも紹介したように、今年度は北畠氏館跡から霧山城跡までを含めた約27haが「多気北畠氏城館跡」として新たに国史跡の追加指定を受けました。

このほかにも、市内には国史跡長野氏城跡(美里町桂畑・北長野)をはじめ、木造城跡(木造町)、垂水城跡(垂水)、安濃城跡(安濃町安濃)など、北畠氏や長野氏に関わる中世城館が数多く分布し、領域を接する両者の緊迫した様相をうかがい知ることができます。

しかし、北畠氏・長野氏の両雄の支配も、やがては織田信長の伊勢侵攻により終焉を迎え、市内の中世城館も姿を消していきます。

さて、津市の地名は、博多津(福岡県)や坊津(鹿児島県)と並び「日本三津」と称される中世の港「安濃津」に由来することは広く知られています。近年、安濃津遺跡(柳山津興)の発掘調査により、港町の一部と目される13世紀・15世紀の集落と、18世紀の集落が確認され、安濃津を中心とした港湾都市の様子が少しずつ明らかになってきました。

また、多気北畠氏遺跡(美杉町上多気・下多気)、井ノ尻・浦ノ戸遺跡(一志町八太)、雲出

島貫遺跡(雲出島貫町)をはじめ、市内の中世遺跡からは中国から輸入された青磁・白磁などの貿易陶磁器や、県外で生産された陶器がたくさん出土しています。これら陶磁器類の出土と陸海交通の要衝である安濃津との関わりについては、今後の調査研究の大きな課題です。

3 近世

津城は、天正8年(1580)に織田信包によって築城されたと伝えられ、その後、富田氏を経て、慶長13年(1608)、藤堂高虎が安濃郡・一志郡を中心とする伊勢国中部と、伊賀国を与えられて津城主となり、津城を中心とした城下町が形成されました。また、寛文9年(1669)に津藩から久居藩が分藩され久居陣屋が置かれます。津・久居城下の面影は多くが失われてしまいましたが、これらの近世城郭が現在の市街地の礎となっています。

以上、2回にわたり紹介してきた市内の遺跡には、三重県の歴史を語る上で欠くことのできない遺跡が多く存在します。遺跡は先人達の生活の痕跡であり、これらは新しい津市の貴重な歴史・文化資源です。市では今年度より詳細遺跡分布調査を実施しており、新たな遺跡の発見も大いに期待されます。

今後も埋蔵文化財の保護と活用に努めてまいりますので、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。(伊勢野久好)



国史跡 長野氏城跡



県史跡 津城跡

最近の調査から

川方城跡発掘調査（川方町）

川方城跡は、雲出川左岸の標高約20mの台地端部に位置します。この台地南縁には、川方城跡のほかにも戸木城跡や牧城跡、また、この東方約2.5kmの沖積地には木造城跡等の中世城館が点在しています。

川方城跡では東西に二つの郭が並んでおり、今も土塁が良好な状態で残っています。

平成18年8月に集合住宅建設に伴って東側の郭と北側の土塁の一部で発掘調査を実施したところ、東側の郭は近世以降に広範囲にわたり削平されていることが判明しました。また、土塁からも門の痕跡等は検出されませんでした。

今回は調査面積が約200㎡と小規模なものでしたが、戦国時代の遺構・遺物も検出されており、この城の築造期を考える上で貴重な資料を得ることができました。（村木一弥）



遺跡位置図(国土地理院『津西部』1:25,000より)



北側の土塁

今徳城跡(第2次)発掘調査（安濃町今徳）

今徳城跡は、安濃川の支流である穴倉川右岸の長谷山から派生する標高約40mの台地上に位置します。

今徳城跡では、平成17年にも安濃町教育委員会によって発掘調査が行われており、第2次調査にあたる今回は、平成18年8月から9月に集合住宅建設に伴って約280㎡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、弥生時代中期の方形周溝墓1基、古墳時代後期の柱穴、今徳城の時代の柱穴、江戸時代の溝が検出されました。なかでも特に古墳時代後期の柱穴は、長谷山古墳群の形成とその造営の母体となる集落を検討する上で、重要な手がかりとなるものです。

また、今徳城の時代の柱穴も築造当初の建物配置等を知る上で重要な発見でした。

今後の検討にご期待ください。（田中秀和）



遺跡位置図(国土地理院『津西部』1:25,000より)



発見された方形周溝墓

多気北畠氏遺跡(第29次)発掘調査

—上多気六田地区— (美杉町上多気)

多気北畠氏遺跡は、室町時代から戦国時代にかけて、伊勢国司北畠氏が伊勢国支配の本拠とした美杉町多気地区に所在する遺跡群の総称です。平成18年7月、遺跡の主要部分にあたる多気北畠氏城館跡(北畠氏館跡・霧山城跡)が国史跡の追加指定を受けました。

そこで、今年度から多気北畠氏遺跡の都市構造の解明に向けて、北畠氏館跡の東、八手俣川右岸に位置する上多気六田地区の発掘調査に着手しました。この地区は、遺跡のほぼ中央に位置し、北畠氏館跡を基軸とした多気地の地割のなかで、ちょうど東西幹線地割と南北幹線地割が交差する部分に面しています。

今回は武家屋敷地を想定し、平成18年11月から平成19年1月に約400㎡を調査しましたが、掘立柱建物の柱穴は少なく、幹線地割と異なる方位の大きな溝が検出されました。今後の調査によって、当時の城下町の様子も次第に明らかになってくることでしょう(石淵誠人)

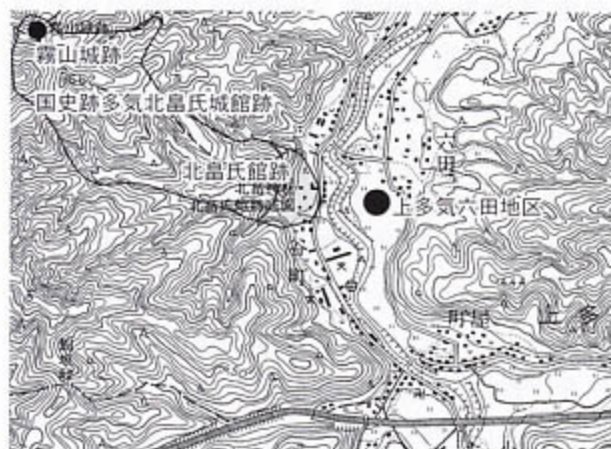
詳細遺跡分布調査

平成18年度から21年度にかけて、本市では詳細遺跡分布調査を実施します。

この調査は、埋蔵文化財の所在を明らかにし、埋蔵文化財保護の基礎となる詳細遺跡分布地図を作成するためのもので、職員及び分布調査員11名で、津市の新たな歴史を発見するために山野を歩きまわっています。

今年度、香良洲町^{からす}と河芸町^{かわづ}で調査を行ったところ、新たな遺跡の発見がありました。今後、どんな遺跡が発見されるのか、調査員は期待に胸をふくらませ調査に励んでいます。

また、調査中、地元の方々から心温まる励ましのお言葉や埋蔵文化財に関する情報をたくさんいただきました。次年度は、今年度引き続き河芸町と一志町^{いちし}での調査を予定しています。これからも、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。(田中秀和)



遺跡位置図(国土地理院『伊勢奥津』1:25,000より)



調査区全景



平成18年度調査



分布調査風景

中鳶遺跡発掘調査（大里窪田町）

中鳶遺跡は、志登茂川中流域の段丘端部に位置する古墳時代の集落遺跡です。昭和50年（1975）の大里小学校体育館建設に伴う発掘調査では、古墳時代前半の土師器が多数出土し、同じ時期の竪穴住居4棟が検出されました。

今回は、校舎建て替えに伴い約600㎡を発掘調査したところ、掘立柱建物1棟が確認されたほか、古墳時代後半から飛鳥・奈良時代の土器をはじめ、朝鮮半島にその起源をもつ韓式系土器の出土も確認されました。

さて、中鳶遺跡と同じ段丘上には古墳時代の祭祀遺跡である六大A遺跡があります。中鳶遺跡から東へわずか300mの距離にあり、韓式系土器の多数出土が知られる遺跡でもあることから、中鳶遺跡と六大A遺跡は一体的な遺跡として理解することができ、今後の調査により、両遺跡のつながりと性格が明確になることが期待されます。（中村光司）



遺跡位置図(国土地理院『津西部』『標本』1:25,000より)



調査区全景

学校の下から遺跡あらわる！ ～中鳶遺跡発掘調査報告会～

1月15日、大里小学校で中鳶遺跡の発掘調査報告会を行いました。対象は大里小学校4～6年生児童とその保護者約150名です。当日は、保護者参観を兼ねた公開授業という形をとって、調査を担当した職員が発掘調査の結果や六大A遺跡を含めた大里地区の遺跡についての解説を行いました。

調査の開始以来、校舎の窓から日々発掘の様子を見守ってくれた子どもたちは、発掘現場に足を踏み入れることを楽しみにしてくれていた様子です。実際に遺跡の上に立って、出土した遺物を手にした子どもたちは、遥か1,500年の昔にタイムトリップした気分で報告に聞き入っていました。

かつての調査で出土した大きな壺を手にしながら、「思ったより軽い」「中には何を入れてたんだろう」「落としたら簡単に割れそう」など、様々な感想を持ってくれたようです。

今回の発掘調査の対象となった場所に新しい校舎が完成するのは2年後の予定です。今の5・6年生が新校舎で授業を受けることはできませんが、自分たちの学び舎が悠久の歴史を持った遺跡の上にあることを、自身の目と手でしっかりと感じてもらうことができました。（中村光司）



発掘現場で調査報告会に聞き入る子どもたち

寄贈資料紹介

香良洲町地家地内出土の土師器甕

平成18年12月に香良洲町で詳細遺跡分布調査を実施していたところ、地家から出土した古墳時代前期初頭（3世紀後半）頃の土師器甕等を寄贈いただきました。

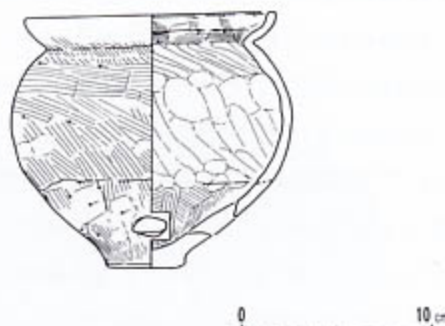
この甕には、底部に焼成後に孔があけられており、このような孔は、祭祀に使用したり墓に供えたりする土器によく見られます。古墳時代前期のこの地域の人々の生活を示す貴重な資料となりました。（田中秀和）



香良洲町地家地内出土の土師器甕



出土地位置図(国土地理院『松阪』1:50,000より)



遺物実測図 (1:4)

芸濃町多門遺跡出土の須恵器

平成18年12月に安濃川上流域右岸に位置する多門遺跡から出土した須恵器の壺と高杯を寄贈いただきました。

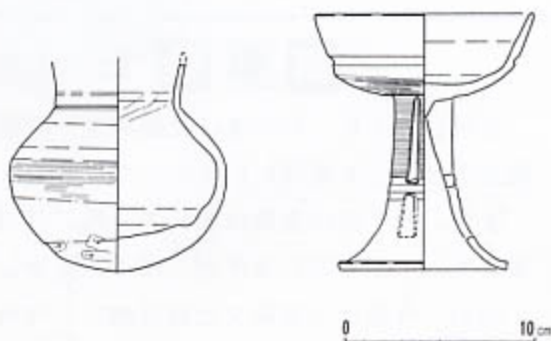
これらは6世紀中頃に作られたものと考えられ、出土したときの詳しい状況等は明らかではないものの、多門遺跡を知る上で貴重な資料となりました。（藤田充子）



芸濃町多門遺跡出土の須恵器壺(左)・高杯(右)



出土地位置図(国土地理院『棕本』1:25,000より)



遺物実測図 (1:4)

埋文センターこの1年

平成18年度日誌抄

- 4月18日《普及》出張講座(高茶屋小学校 162名)
 4月19日《見学》神戸小学校 75名
 4月25日《見学》戸木小学校 21名(久居分室)
 5月17日《普及》寿大学講師(豊里公民館 30名)
 5月26日《普及》寿大学講師(豊里公民館 30名)
 6月2日《普及》「新しい津のまち講座」(美杉中央公民館 40名)
 6月2日《見学》鈴鹿国際大学博物館学講座 7名
 6月2日《貸出》川北遺跡出土遺物ほか
 [鈴鹿国際大博物館学講座](~7月7日まで)
 6月28日《見学》「たかさご教室」(ハツ山公民館 30名)
 6月29日《普及》出張講座(村主小学校 35名)
 7月18日《見学》「津のまち講座」(河芸中央公民館 40名)
 7月19日《普及》出張講座(敬和小学校 40名)
 8月7日《調査》川方城跡発掘調査(8月25日まで)
 8月14・15日《普及》インターンシップ研修 2名
 8月24日《調査》今徳城跡第2次発掘調査(9月30日まで)
 10月5日《普及》南が丘小学校選択教科
 10月12日《普及》南が丘小学校選択教科
 10月23日《閲覧》一色山古墳群出土玉類ほか
 10月26日《普及》南が丘小学校選択教科
 11月2日《普及》南が丘小学校選択教科
 11月9日《普及》南が丘小学校選択教科
 11月14~16日《普及》職場体験学習(西郊中学校 3名)
 11月17日《調査》中蔵遺跡第3次発掘調査(1月20日まで)
 11月27日《調査》遺跡詳細分布調査(3月5日まで)
 11月28日《調査》多気北畠氏遺跡第29次発掘調査(1月16日まで)
 12月1日《見学》明合公民館 35名(久居分室)
 12月15日《貸出》山王遺跡出土遺物ほか
 [鈴鹿市考古博物館](~3月15日まで)
 1月6日《調査》多気北畠氏遺跡第29次発掘調査現地説明会
 1月13日《調査》中蔵遺跡第3次発掘調査現地説明会
 1月15日《調査》" 発掘調査報告会(大里小学校)
 1月23日《調査》亀井遺跡第2次発掘調査(3月22日まで)
 2月3日《調査》小野口遺跡第2次発掘調査(3月13日まで)
 2月8日《見学》草生公民館 20名(久居分室)
 2月17日《普及》考古学講座 27名
 2月24日《普及》考古学講座 30名
 3月3日《普及》考古学講座 24名
 3月2日《見学》榊原上教育集会所 25名
 3月14日《普及》橋北中学校選択教科
 3月17日《調査》亀井遺跡第2次発掘調査現地説明会
 3月28日《見学》下村教育集会所 25名

平成18年度埋蔵文化財保護関係実績

内 容	文化財保護法届出・通知		発掘調査等実績			
	第93条	第94条	発掘調査	試掘・確認調査	工事立会	慎重工事
件 数	77	27	6	25	47	16

編集後記

合併して1年、今年度は発掘調査や詳細遺跡分布調査など、とても忙しい1年となりました。

また、今年度は貴重な資料を2件ご寄贈いただきました。末筆であります、厚くお礼申し上げます。

なお、今後とも埋蔵文化財保護にご理解とご協力をお願いいたします。(編集子)

発行日：平成19年3月30日

編集発行：津市埋蔵文化財センター

〒514-0058

三重県津市安東町1225

TEL 059-229-0210

FAX 059-229-4601

印刷：森田印刷株式会社

R100

この冊子は古紙パルプ配合率100%の再生紙を使用しています。